

にさせた。

<資料3 児童から出された評価記入例>

○できた	○うれしい	○すごい	○おもしろい	○がんばるぞ	○真剣にやる
○知りたい	○先生にほめられた	○自分の説(予想)がその通りだった	○うま	○わくわく	○知らなかったことが初めてわかった
○とても楽しい	○ときどき	○よかった	○興味しんしん	○早く調べたい	○早く調べたい
○早く発表したい	○くわしく知りたい	○細かく知りたい	●あきた	●わからない	●できない
●やりたくない	●くわしい	●めんどくさい	●早く終わらないかなあ	●見方考え方について児童から学習中に書かれた例	

自己評価表への記入は、各段階の終わりに

にさせた。

② 考察

教師が与えた評価項目について自己評価することから始めたが、最初とはまどう児童が多かった。

自己評価は、あくまでも自分の学習の改善のためにある。そこで、問題を解決するために、どうしたらよいか(方法)、どう考えたらよいか(見方や考え方)などの見直しを児童自身にさせることを通して、社会的なものの見方や考え方に結びつく評価項目を作らせていった。

その結果、学習を進めるなかで、いくつかの評価項目がつけ加えられた。「くわしく」や「細かく」などである。

(2) 各段階における自己評価の実際

自己評価表は、各段階の終わりに記入したが、それと並行して、各段階の学習を進める過程においても、自らの学習活動を振り返らせた。

以下、各段階における自己評価の工夫を述べる。

① 問題づくりの段階

小単元の最初の時間に設定した問題を、予想や追究の段階で、見直せるような評価項目を作らせた。「分かったことは何か」「分からないことは何か」などである。

その結果、新たに問題を補助的につくり取り組む児童もみられた。(資料4)

<資料4 問題を見直している例>

調べながら思、たこと

○こんなに学校の中には、火事のためにくわいされてると思わなかつたです。

もんだい

●学校の中でなく、幾世橋の回りでもどんな工夫がされているか?

よそう

防火水そうのひよ、しほなどあるかもしれない。

どこ(消防しょ)(幾世橋の回り)

何を(自分の作、たもんだい)

いつ(?)

だれに(消防しょの人たち)

まとめ方にこれかしたいこと感想)

もんだいのか
かいたか?

自分では
かいたか?

よそうは
よかったですか?

自分で考えた
よかったですか?

自分で考えた
よかったですか?

② 予想と計画づくりの段階

自己評価をさせた初めのころは予想や計画づくりの活動がむずかしいという児童が多かった。しかし、社会的なものの見方や考え方を意識させるためには、この段階が大切であると考え、形式的な学習方法ではなく、計画づくりの手引き(資料5)などをもとに計画させた。そして、児童一人一人の問題に即して、計画がそれでよいかどうか見直させた。

<資料5 計画づくりの手引き>

- (ノートのうら表紙にはっておく)
- ① どんなことを調べたいのか(どんなしょうごがあればよいのか)をはっきりさせよう。
 - ② どんな方法で調べればよいかをはっきりさせよう。
例(見学、家族や近所の人にインタビュー、教科書、資料集、体験、観察、まねをする、グラフや表、話し合うなど)
 - ③ 一人で調べるのか、グループで調べるのか、みんなで調べるのかをはっきりさせよう。
 - ④ わかったことや考えたことをどんなふうにもとめたいかはっきりさせよう。
 - ⑤ 自己評価表の欄(らん)を作ろう。
※自分の問題や予想にあわせて、計画を少し変えてもいいです。